

大平興産大塚山処分場の改善勧告に係わる改善計画（案） 追加訂正資料

既提出資料「大平興産大塚山処分場既存観測井 No. 2 の改善勧告に関わる改善計画」（以下「改善計画」とする）では対象としなかった第 2 大塚山泥層の下位層準にあたる K d 3 8 層束の層準までの高濃度塩類分布の研究が、現場簡易分析の手法で行われた。その研究結果では、前述の K d 3 8 層束の層準でも高濃度塩類の存在が明らかになった（図－1）。

そこで、「改善計画」で対象としていた第 2 大塚山泥層下部までの層準に加え、前述の K d 3 8 層束の層準に関わる調査・対策をも追加した「改善計画（案）」とした。

既提出資料「改善計画」は以下の 6 点からなるが、それぞれに対する追加訂正内容は以下のとおりである。

本計画は以下の 6 点からなる

① 第二処分場最下流域における地下水位・地下水質観測井群の設置

第二処分場の最下流域において 1 2 箇所の各観測地点に設置する 3 本の観測井に加え、K d 3 8 層束の透水層单元にも観測井を設置する。つまり、各観測地点は 4 本の観測井からなる。掘削径 $\phi 86\text{ mm}$ のオールコア・ボーリングの掘り止め深度は、K d 3 8 層束下位の層準を確認するまでとする。図－2・図－4・図－6 を参照。

② 漏洩防止応急対策試験用井戸群の設置

試験用井戸群の井戸構造は、地表面から K d 3 8 層束の基底まで裸孔とする。図－3・図－4・図－5・図－6・図－7・図－8 を参照。

③ 漏洩防止応急対策井戸群の設置（恒久対策にも使用）

各井戸の掘り止め深度は、K d 3 8 層束の基底とし、すべて裸孔とする。漏洩防止効果は、漏洩防止応急対策井戸群配列の下流側にある観測地点 OW－No. 3、OW－No. 5、OW－No. 6、OW－No. 1 2 で確認する。図－2・図－9・図－10・図－11 を参照。

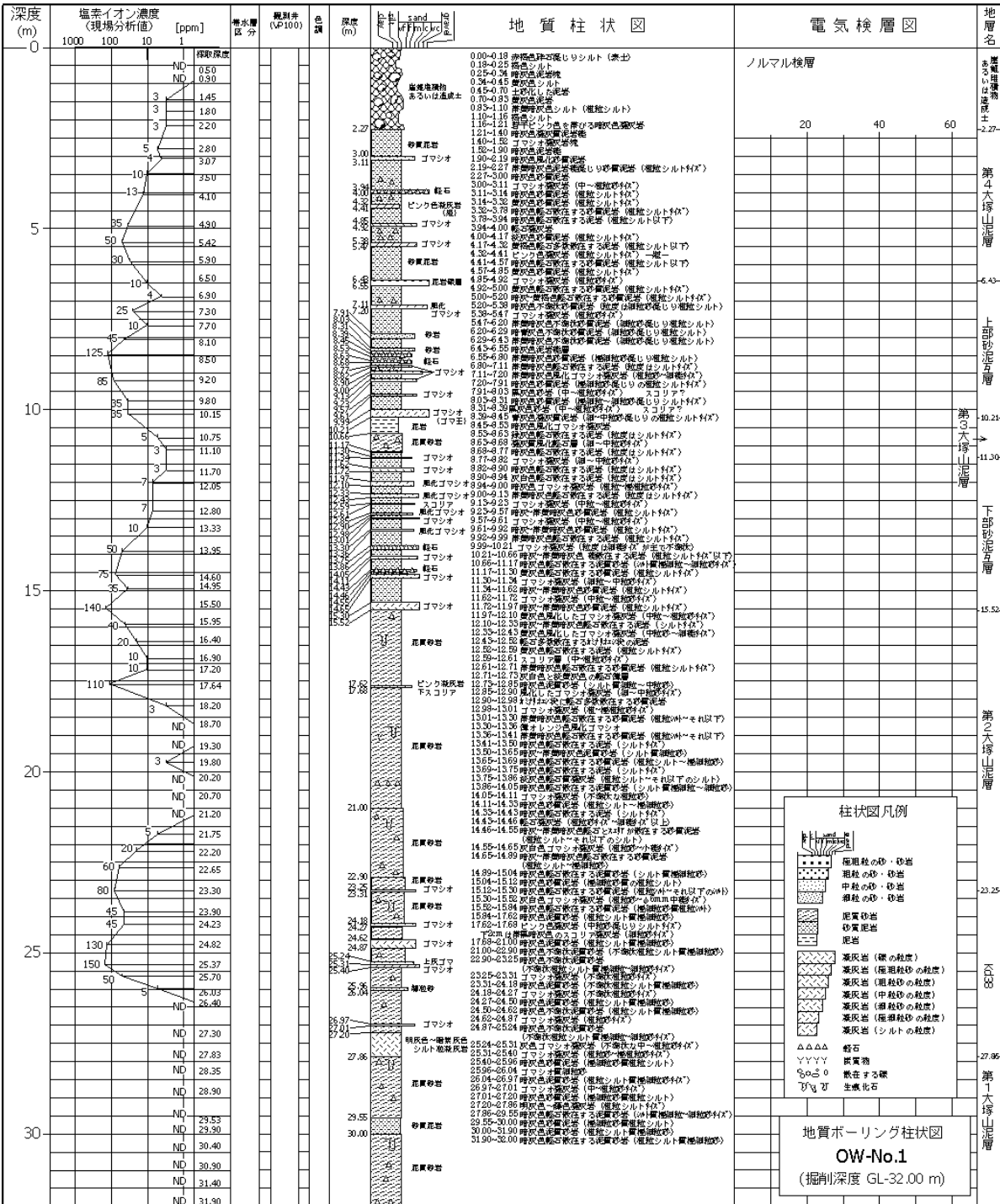
④ 地下水流動系および対象物質（ここでは Cl^- とする）の挙動および作業上の力学的安定性の把握とそれらに関わるシミュレーションの実施（図－12）

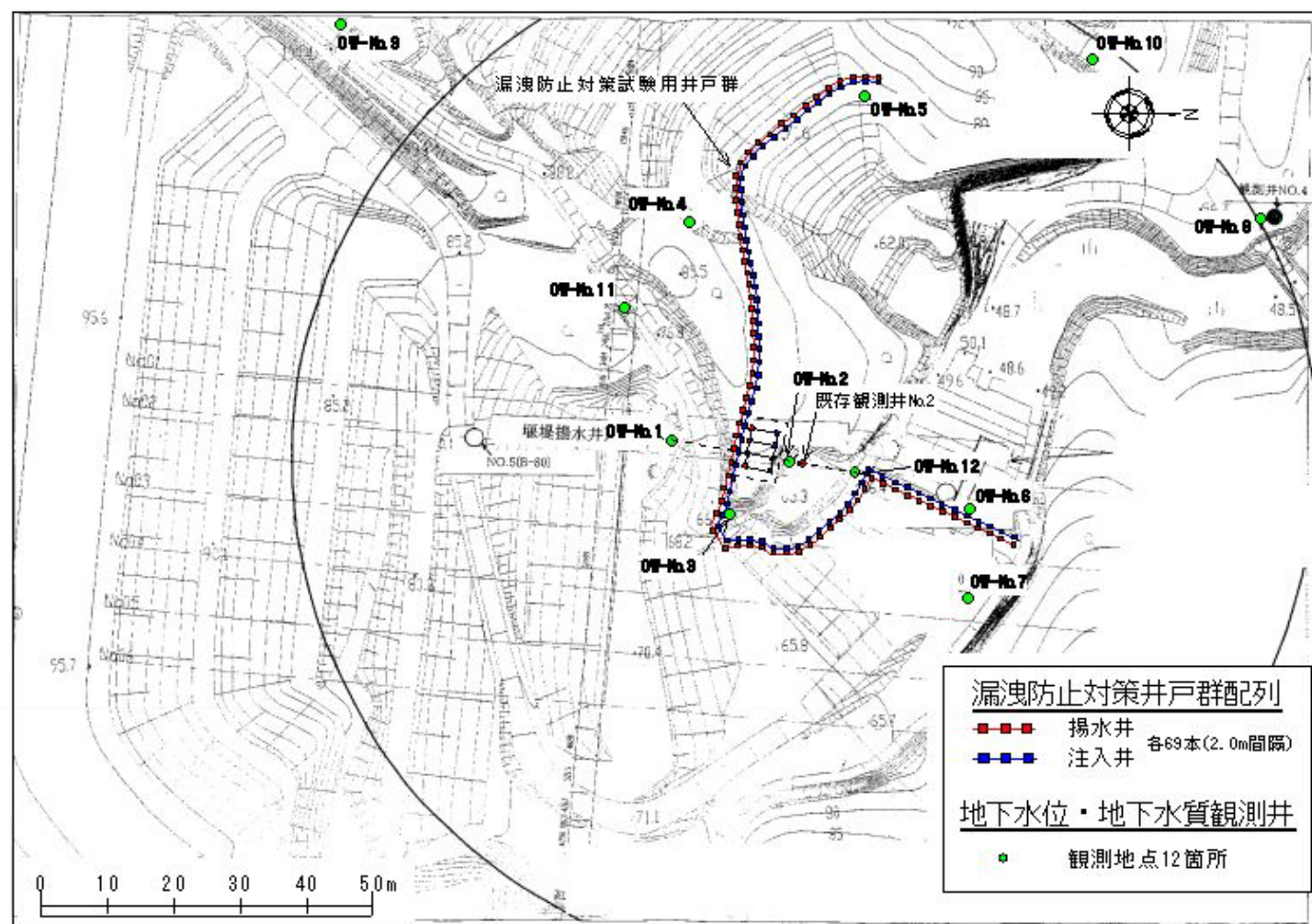
⑤ 恒久漏洩防止対策のための漏洩している地層の充填用材質および手法の検討（図－12）

⑥ 恒久対策（図－12）

図-1 地質ボーリング柱状図

調査件名	大塚山処分場塩類濃度のバックグラウンドおよび漏洩塩類濃度の比較研究			施主	
ボーリング名称	NSW-No.1		調査箇所	富津市高溝	
掘削深度	GL-32.00 m	掘削方法	ロータリー式（泥水循環による掘削）ケーシング管（鋼管）挿入		コア回収率
着工日		完工日		地盤標高	TP+ m
施工				管頭標高	TP+ m





図一 2 漏洩防止応急対策井戸群配列および地下水位・地下水質観測井設置図

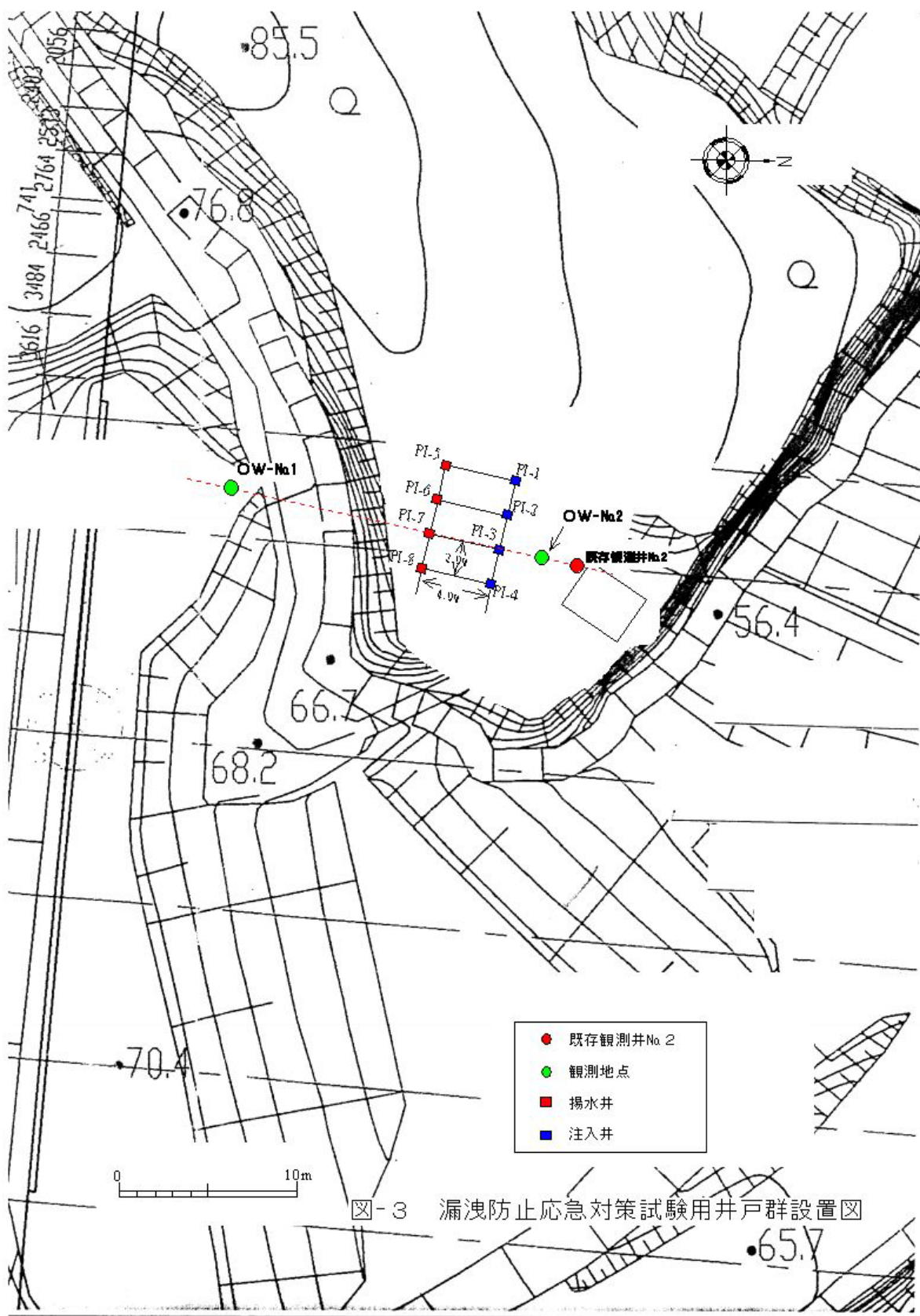


図-3 漏洩防止応急対策試験用井戸群設置図

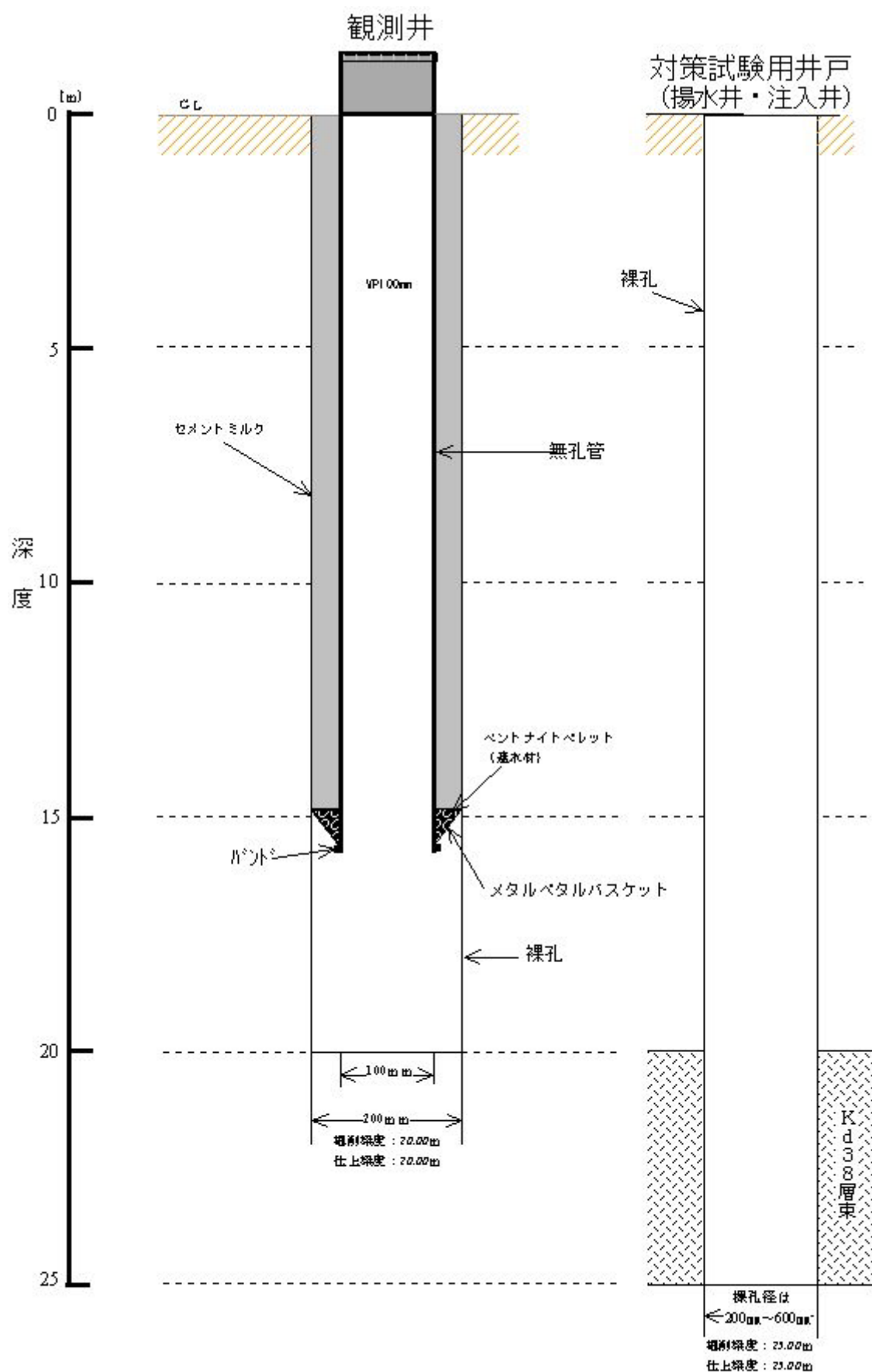


図-4 各種井戸構造図

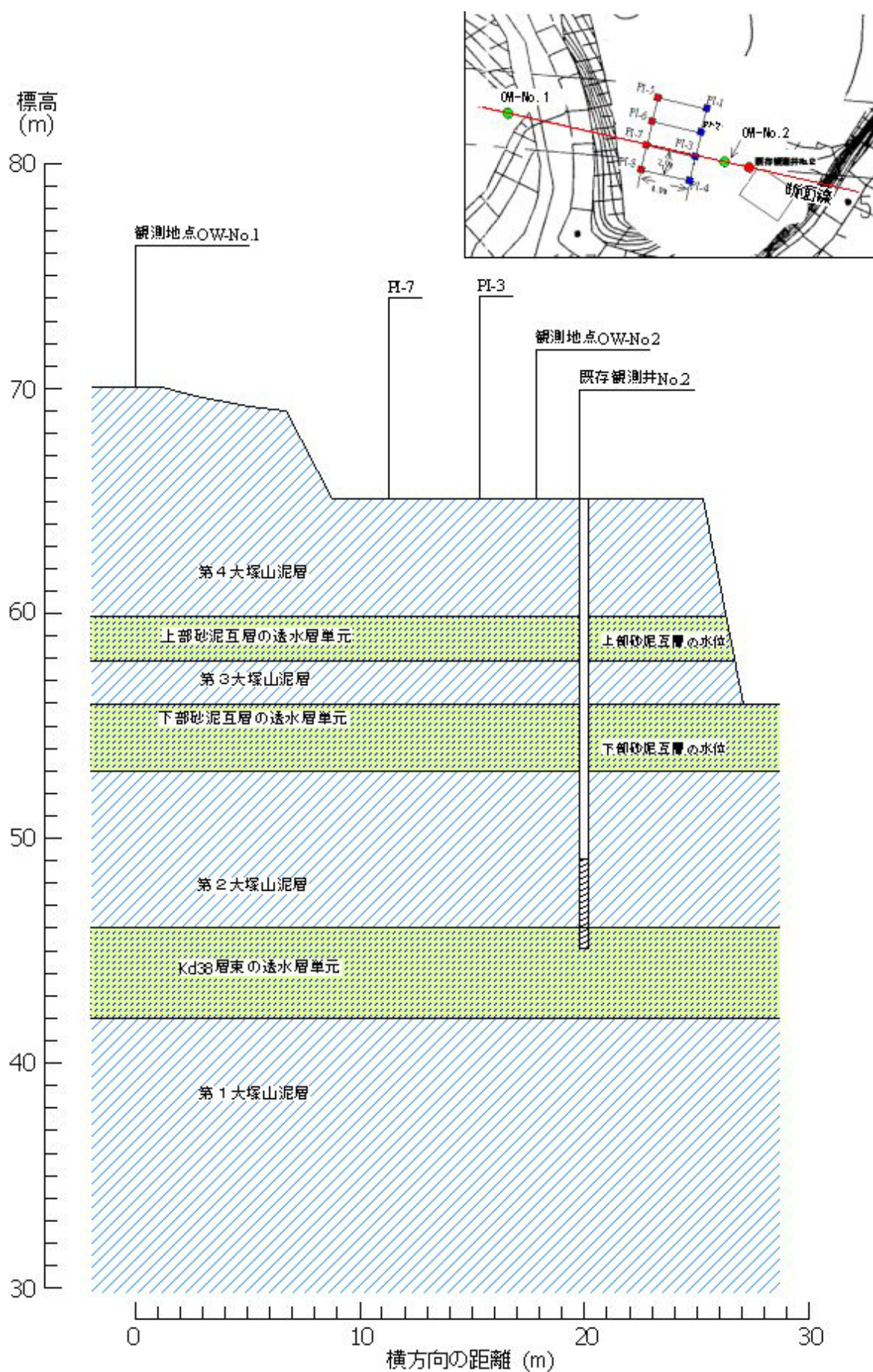


図-5 既存観測井No. 2周辺の予想地質断面図

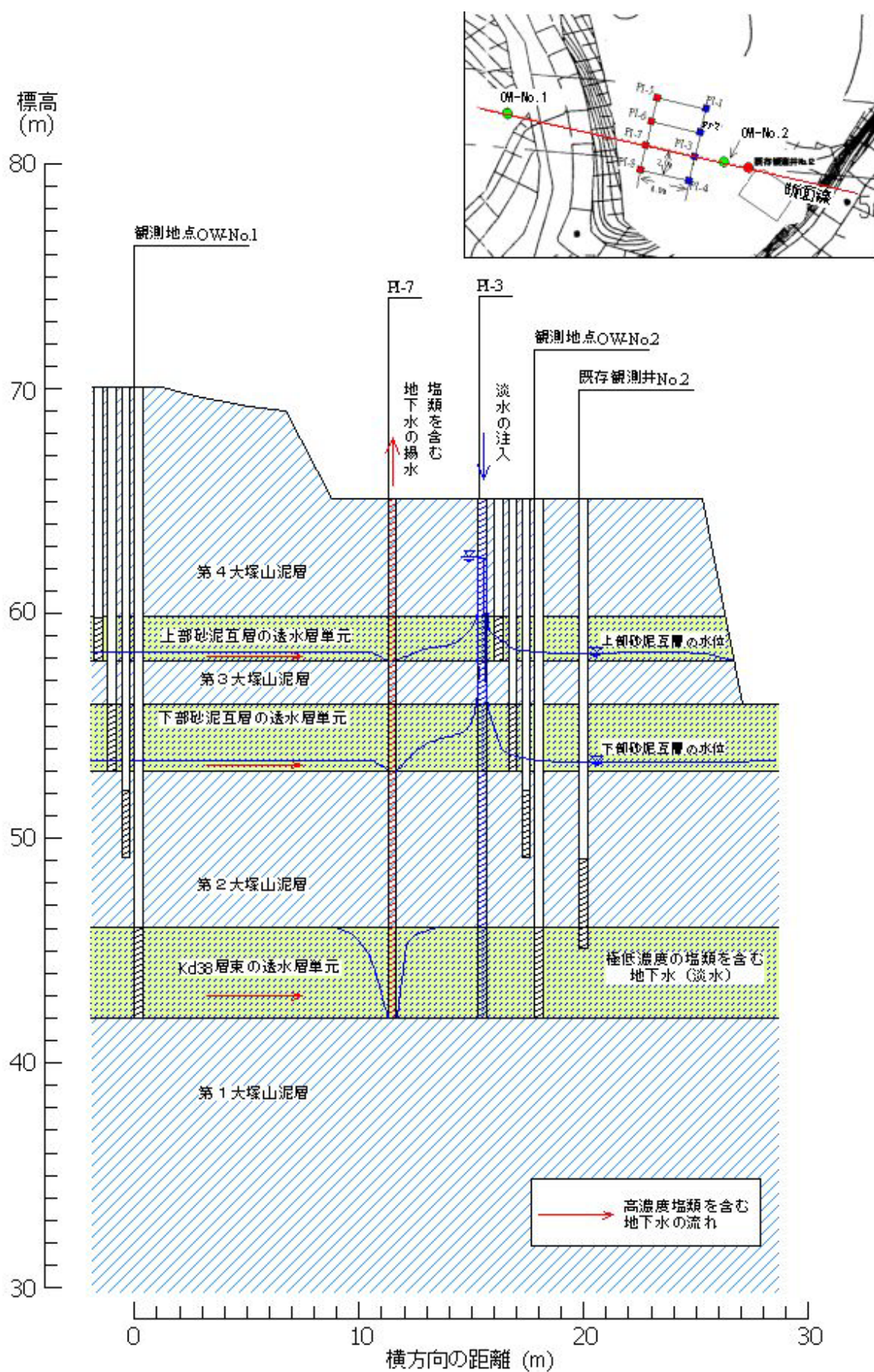


図-6 応急対策試験井（揚水井・注入井）・観測井（OW-No.1、OW-No.2）配列横断面図

標高
(m)

80

70

60

50

40

30

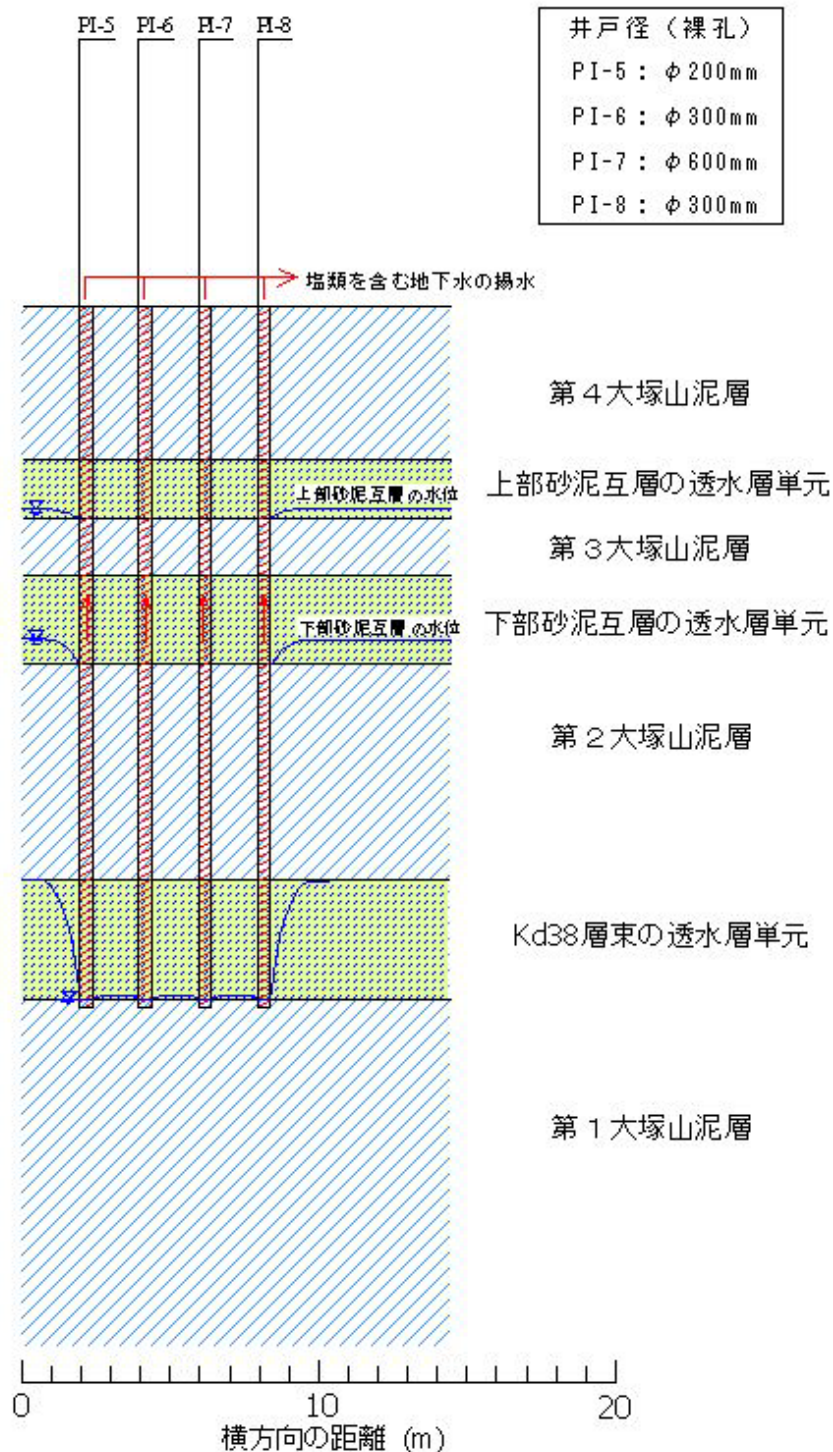


図-7 応急対策試験用揚水井配列図

標高
(m)

80

70

60

50

40

30

PI-1 PI-2 PI-3 PI-4

淡水の注入

井戸径（裸孔）

PI-1 : $\phi 200\text{mm}$

PI-2 : $\phi 300\text{mm}$

PI-3 : $\phi 600\text{mm}$

PI-4 : $\phi 300\text{mm}$

第4大塚山泥層

上部砂泥互層の透水層単位

第3大塚山泥層

下部砂泥互層の透水層単位

第2大塚山泥層

Kd38層束の透水層単位

第1大塚山泥層

横方向の距離 (m)

0

10

20

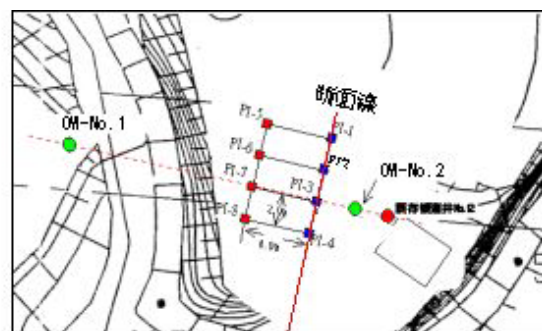


図-8 応急対策試験用注入井配列図